哲學研究

第二十一卷　第一册

第二百三十八號

昭和十一年一月一日發行

京都帝國大學
昭11. 1. 4.
哲學研究會

感情の煩惱的性格……文學士　佐藤幸治

知覺形而上學の問題……文學士　土井虎賀壽

デカルトの形而上學……文學士　野田又夫

京都帝國大學文學部內

京都哲學會

京都哲學會規則

第一條　本會ヲ京都哲學會ト稱ス

第二條　本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス

第三條　本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、毎月一回研究會ヲ開ク

一、毎年公開講演會ヲ開ク

一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス

第四條　本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク

第五條　本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク

一、委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス

第六條　本會ノ趣旨ニ贊同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得

學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得

第七條　會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス

第八條　會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク

第九條　本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士　天野貞祐

文學士　岩井勝二郎

文學博士　植田壽藏

文學士　臼井二尚

文學博士　小島祐馬

文學博士　木村素衞

文學博士　九鬼周造

文學博士　田邊元

文學士　中井正一

文學士　西谷啓治

文學博士　野上俊夫

文學博士　羽溪了諦

文學博士　波多野精一

文學士　服部英次郎

文學博士　本田義英

文學博士　山内得立

前號目次

種の論理と世界圖式（承前）
——絶對媒介の哲學への途——……文學博士　田邊　元
高次の方向量の論理（承前）……文學士　佐藤省三
古代及び中世の西洋美術に對する東方の影響（承前）……小林太市郎

會告

一、本會ハ入會希望者ハ京都市西洞院七條南內外出版印刷株式會社內京都哲學會宛テニ規定ノ會費（前表紙裏ニアリ）御納付ノ上御申込被下度候

一、會員ニシテ轉居入退會等（編輯事務以外ノ一切）ノ事務ハ內外出版印刷株式會社內京都哲學會ヘ御通知被下度候

一、會費ハ振替口座大阪巻〇六六三番　內外出版印刷株式會社內京都哲學會宛テニ御拂込被下度候

一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學文學部內　**京都哲學會**

註文規定

◎會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は內外出版印刷株式會社へ御申込下され度候

◎本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下され度く候

◎振替貯金にて御送金の際は（振替大阪三九三一番東京三九三一番）內外出版印刷株式會社宛に願上候

◎前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章押捺致すべきに付直に御拂込下され度候

◎特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

定價

冊數	定價	郵稅
一冊	金四拾錢	金壹錢
六冊（前金）	金武圓四拾錢	不申受
十二冊（前金）	金四圓八拾錢	不申受

廣告料

一頁　金參拾圓　半頁ハ取扱不申

昭和十年十二月廿五日印刷納本
昭和十一年一月一日發行　第二百三十八號第二十一卷第一冊

京都帝國大學文學部內
編輯者　京都哲學會
右代表者　服部英次郎
發行者　須磨勘兵衛　京都市北小路通新町西入
印刷者　須磨勘兵衛　京都市北小路通新町西入
印刷所　內外出版印刷株式會社　京都市西洞院通七條南入

不許複製
禁轉載

發行所　京都市下京區西洞院七條南　內外出版印刷株式會社　振替口座大阪三二九五五番　東京三九三一番

本社　京都市下京區西洞院通七條南入

販賣所　東京市日本橋區室町四丁目　內外出版印刷株式會社

賣捌所
（東京）寶文館　東京堂
北隆館　東海堂
（大阪）寶文館　上田屋
（神戸）盛文館　參文社
（京都）共盛社　大川瀨書店　盛社

（大正五年四月六日第三種郵便物認可）昭和十年十二月廿五日印刷納本（毎月一回一日發行）昭和十一年一月一日發行

哲學研究　第二百三十八號　定價金四拾錢　郵税金壹錢

ヘーゲル大論理學 中卷

東北帝國大學講師
鈴木權三郎譯

菊判四五二頁
クロース裝上製函入
定價三・三〇　送・三三

新刊

近年に於けるヘーゲル哲學への關心は、彼の哲學方法たる辯證法と結びつけずして考へる事は出來ないであらう。辯證法の正しき理解なくしては彼の深遠なる哲學體系の包藏する生命の波動、生ける論理を解明することは出來ぬからである。而してヘーゲル哲學を理解することは辯證法を理解することであり、辯證法の研究は亦ヘーゲル論理學の研究に於て極まると云はる。即ちこの論理學がヘーゲル哲學體系の中に占める位置及び意義については極めて明瞭であつて、今更喋々を要しないであらう。この「中卷」は「本質論」であつて、特に重要なる部分に屬する。篤學な譯者の不撓なる努力により、「上卷」に次で茲に本卷を完成したるは我が學界への寄與を愈〻深めるものであり、譯者がヘーゲル哲學を十分マスターして要所要所に加へられたる註釋は重要にして讀者を援けること極めて大なりと信ずる。ヘーゲル哲學乃至辯證法の無盡なる內容、根基を把握せんとする者のみならず、現代思潮に關心を有する人々の忠實なる熟讀を期待する。

ヘーゲル大論理學上卷　鈴木權三郎譯

菊判上製六九六頁　定價四・五〇
クロース裝函入　送料・三三

岩波書店
東京一　東京神田　振替東京二六四二〇